

TOTTORI KETAKA AOYA
鳥取県気高郡青谷町

青谷町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

(NAGATANI NAGOUSETERADA
長谷古墳群、長和瀬寺田所在遺跡)
OOGUTI
及び大口第3遺跡試掘調査)

1994.3

鳥取県気高郡

青谷町教育委員会

序 文

この報告書は、開発事業に伴い、国庫補助及び県補助を受けて、平成5年度に実施した青谷町内遺跡の試掘調査記録であります。

青谷町は、自然環境にも恵まれ、東西の丘陵に挟まれた地域には、多くの有形・無形の文化遺産も残されています。

近年は、社会の進展に伴って各種開発事業が計画・実施され、さらに増加する傾向にあります。文化財保護を推し進めている私共といたしましては、こうした開発と文化財の共存をはかるべく諸関係機関と協議を重ね、円滑に文化財行政を進めているところです。

今回の調査は、一般国道9号青谷・羽合道路（青谷・泊工区）新設工事に伴う長谷古墳群及び長和瀬寺田所在遺跡、牛舎建設用地造成に伴う大口第3遺跡の試掘調査です。

この調査に当っては、鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位の格別なご指導・ご協力を仰ぎながら、土地所有者や調査員、作業員の方々の熱意によりやく調査を終えることができました。ここに深く感謝を申し上げる次第であります。

なお、この報告書は不十分な所も多くありますが、私たちの郷土理解に役立てていただくとともに、今後の調査研究の一助となれば幸いです。

平成6年3月

青谷町教育委員会

教育長 山 田 正 信

例 言

1. 本報告書は、平成5年度国庫補助及び県補助を受けて青谷町教育委員会が実施した青谷町内遺跡発掘調査の記録である。
2. 本発掘調査事業は、一般国道9号青谷・羽合道路（青谷・泊工区）の新設工事に伴う長谷古墳群及び長和瀬寺田所在遺跡、牛舎建設用地造成に伴う大口第3遺跡の範囲と性格を確認し、工事との調整を図るために行った試掘調査である。
3. 発掘調査及び報告書作成にあたっては、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの指導と協力を得た。
4. 本書の作成は、調査員の坂根・森が協議しながら、執筆・編集を行った。
5. 本書に使用した方位は磁北で、実測図の縮尺は原則として遺構1/80、遺物1/3で示し、土色及び土器類等色調を表すには農林水産技術会議事務局監修「標準土色帳」によった。地図は、国土地理院の承認を得て作成された「青谷町全図」の5万分の1の地図を使用した。
6. 本書における遺構、遺物等の略号は次のように示す。
T：トレンチ SD：溝 SX：埋葬施設 P：ピット
Po：土器 F：鉄器
7. 発掘調査で得られた日誌・図面・写真・遺物等は、青谷町教育委員会で保管する。

調査関係者

調査主体	青谷町教育委員会
調査団長	山田 正信（青谷町教育委員会教育長）
調査員	坂根 善男（青谷町文化財保護審議会会長） 森 佳樹（青谷町教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事）
事務局	横川 恒雄、森 佳樹、徳原 一実 (以上青谷町教育委員会事務局生涯学習課)
調査指導	鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター
作業協力	岡 美也子、岡村百合子、蔵光 照代、源徳 正、小谷 清夫 竹森 幸一、中浜 清晴、浜本ちよ子、浜本 春光、森 千恵子 森本 賢市、山下 真也、山下智恵子、山根喜美代、吉田岩太郎 吉田ます子、伊藤 節子 ほか

本文目次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査の概要	5
第1節 長谷古墳群	5
(1) 調査の方法	5
(2) トレンチの概要	6
第2節 長和瀬寺田所在遺跡	11
(1) 調査の方法	11
(2) トレンチの概要	12
第3節 大口第3遺跡	13
(1) 調査の方法	13
(2) トレンチの概要	13
第4章 まとめ	21
(1) 長谷古墳群	21
(2) 長和瀬寺田所在遺跡	21
(3) 大口第3遺跡	22

挿図目次

挿図1 青谷町遺跡分布図	3
挿図2 長和瀬周辺位置図	5
挿図3 長谷古墳群第2トレンチ平面図及び土層図	6
挿図4 長谷古墳群第5トレンチ土層図（西側壁）	6
挿図5 長谷古墳群試掘トレンチ配置図	7
挿図6 長谷古墳群第6トレンチ平面図及び土層図	9
挿図7 長谷古墳群第8-2トレンチ平面図及び土層図	10
挿図8 長谷古墳群第9トレンチ平面図及び土層図	10
挿図9 長和瀬寺田所在遺跡試掘トレンチ配置図	11
挿図10 長和瀬寺田所在遺跡第1トレンチ平面図及び土層図	12
挿図11 大口第3遺跡第1トレンチ平面図及び土層図	14

挿図12	大口第3遺跡第2トレンチ土層図（西側壁）	14
挿図13	大口第3遺跡試掘トレンチ配置図	15
挿図14	大口第3遺跡第3トレンチ平面図及び土層図、石棺平面図	17
挿図15	大口第3遺跡第4トレンチ土層図（西側壁）	18
挿図16	大口第3遺跡第7トレンチ土層図（北側壁）	18
挿図17	大口第3遺跡第8-1トレンチ平面図及び土層図	18
挿図18	大口第3遺跡第8-2トレンチ平面図及び土層図	19
挿図19	大口第3遺跡第9トレンチ平面図及び土層図	20
挿図20	大口第3遺跡第10トレンチ平面図及び土層図	21
挿図21	大口第3遺跡出土遺物実測図	23

表 目 次

表1	長谷古墳群試掘トレンチ一覧表	6
表2	長和瀬寺田所在遺跡試掘トレンチ一覧表	11
表3	大口第3遺跡試掘トレンチ一覧表	13
表4	大口第3遺跡出土遺物観察表1	24
表5	大口第3遺跡出土遺物観察表2	25

図 版 目 次

図版1	長谷古墳群遠景 トレンチ完掘状況（T2、T5）	26
図版2	長谷古墳群トレンチ完掘状況（T6、T8） 長谷7号墳	27
図版3	長谷古墳群トレンチ完掘状況（T9） 長和瀬寺田所在遺跡遠景 トレンチ完掘状況（T1）	28
図版4	大口第3遺跡遠景 トレンチ完掘状況（T1、T2）	29
図版5	大口第3遺跡トレンチ完掘状況（T3、T4、T5）	30
図版6	大口第3遺跡トレンチ完掘状況（T6、T7、T8-1）	31
図版7	大口第3遺跡トレンチ完掘状況（T8-2、T9、T10）	32
図版8	大口第3遺跡石棺出土状況（T3、T9） 土器出土状況（T8-2）	33
図版9	大口第3遺跡出土遺物1	34
図版10	大口第3遺跡出土遺物2	35

第1章 調査に至る経過

(1) ^{ながたに}長谷古墳群及び^{なごうせてらだ}長和瀬寺田所在遺跡

建設省から鳥取県教育委員会文化課（以下県文化課）に、一般国道9号青谷・羽合道路（青谷・泊工区）新設工事の計画がもたらされた。このため、1992年2月に建設省と鳥取県埋蔵文化財センターによって事前踏査が行われた。その結果、土器等散布地4カ所、周知の古墳群1カ所が確認された。

これを受けて、1992年12月に建設省から町教育委員会へ事前調査の依頼がもたらされた。その後、建設省及び県文化課、町教育委員会等で協議を重ね、本年度は畑地及び山林の2カ所について試掘調査を行うこととなった。調査期間は、長谷古墳群が1994年2月8日から2月15日、長和瀬寺田所在遺跡が1994年3月10日及び3月11日である。

(2) ^{おおぐち}大口第3遺跡

1992年11月に尾崎泰仁氏・高田理明氏から山林4,042m²において牛舎建設用地造成する計画が、町教育委員会へもたらされた。このため1993年2月に試掘調査を実施した。

さらに、尾崎泰仁氏から丘陵上についても用地造成の計画がもたらされ、事前協議を行い、本年度試掘調査を行うこととなった。

この地域は、1978年の広域農道新設計画に伴う事前踏査で古墳の存在が確認され、また周辺の大口第1遺跡発掘調査（1985年）・大口第2遺跡発掘調査（1989年）によって弥生時代から古墳時代・奈良時代の遺跡が確認されている。さらに昨年度の試掘調査では弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡や土壘などが検出され、大口第3遺跡として確認された。

今回の試掘調査期間は、1994年3月1日から3月8日である。

第2章 遺跡の位置と環境

^{あおや}青谷町は、^{とつとり}鳥取県の中央よりやや東に位置し、東部地域の西端、旧国名でいえば^{いなば}因幡国に属し、^{ほうき}伯耆国との国境にある。北は日本海に面し、東は気高町、西は泊村・東郷町、南は鹿野町・三朝町に隣接し、東西約7.7km、南北約13kmと南北に長く、面積約68.3km²の町である⁽¹⁾。

町の南域は標高500mを越す山地で、そこから北へ伸びる溶岩台地が町の東西を取り囲み町界をなしている。溶岩台地の北端は^{ながおのはな}長尾鼻、オゴノ鼻と続き、30mをこえる断崖となって

日本海に突出している。また、溶岩台地の東を日置川^{ひおき}、西を勝部川^{かちべ}が流下し、河口近くで合流し日本海に注いでいる。合流地点付近に沖積平野、海岸部に砂丘が形成されている。町内の砂浜は、全国的にも珍しい鳴り砂の浜として知られている。⁽¹⁾

町内の遺跡は、確認されているものだけでも約30カ所あり、その大半は古墳である。今回調査した長谷古墳群(1)は、長和瀬集落東側を南北に伸びる丘陵上で、集落から南東約500m離れた標高65m前後の地域である。この長谷古墳群では東側の丘陵傾斜地に16基の古墳が存在し、1988年の農免農道新設工事に伴う発掘調査で横穴式石室4基、箱式石棺2基が検出されている⁽²⁾。さらに、長和瀬川上流に位置する絹見部落^{きぬみ}周辺では釜ノ口古墳群^{かまのくち}(34)（泊村との町境にあたり泊村では小浜古墳群^{こばま}と呼ばれている）が存在し、縄文時代の石皿・石斧の出土地⁽³⁾⁽³⁵⁾、弥生土器・土師器等の散布地も多く確認されている。

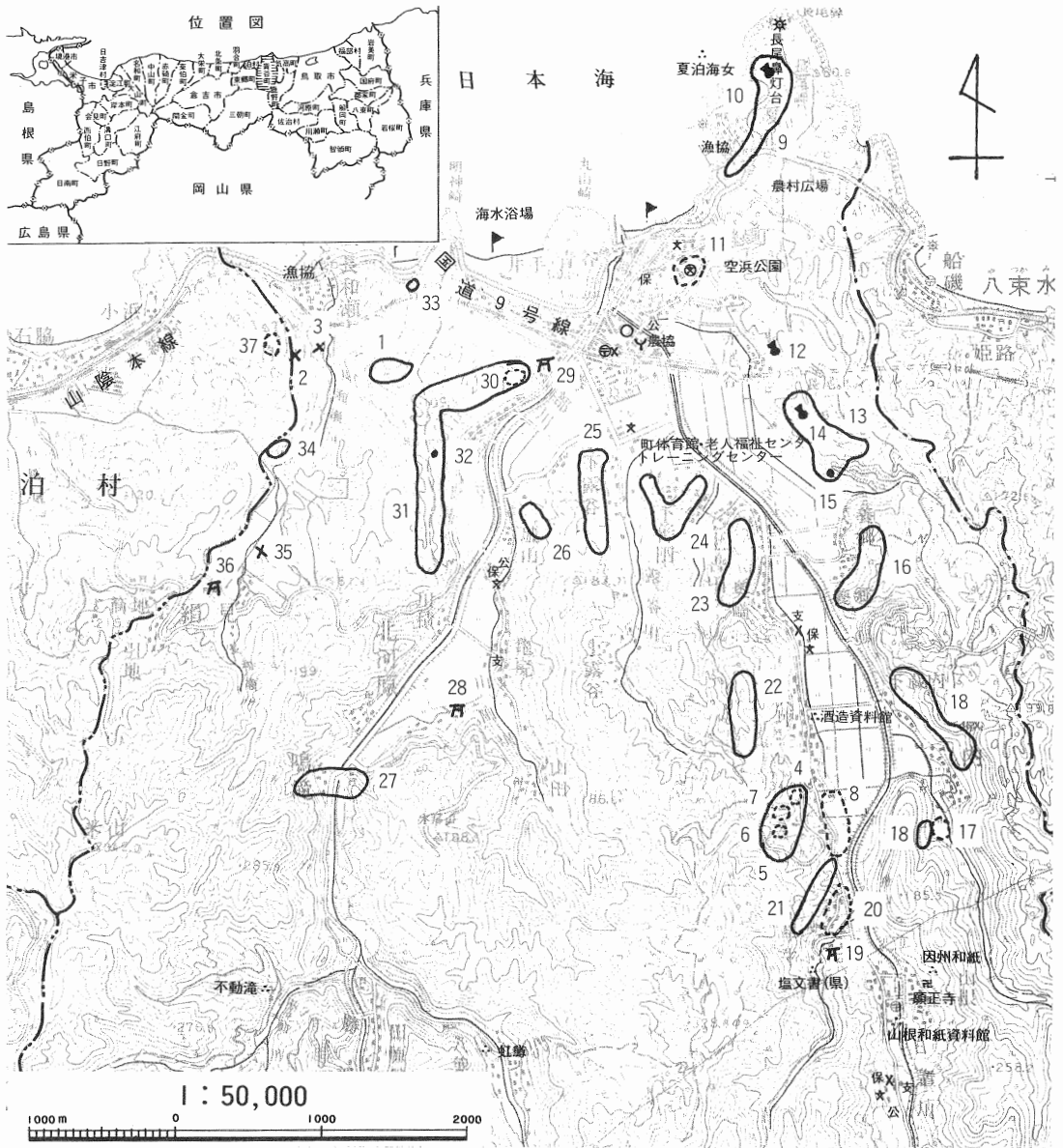
今回調査した長和瀬寺田所在遺跡(2)は、長和瀬集落の西側を南北に伸びる丘陵上で、集落から南西約700m離れた標高65m前後の地域である。この丘陵は、旧国名の因幡・伯耆の国境をなし、現在では青谷町と東伯郡泊村との町境にあたっている。また、この丘陵の東側山裾には土器散布地である長和瀬谷田所在遺跡^{たにだ}(3)が、西側丘陵上には銅鐸等が出土した泊村池ノ谷遺跡^{いけのたに}(37)等が存在する⁽⁴⁾。長和瀬谷田所在遺跡は、1993年1月に長和瀬漁業集落整備事業に伴い試掘調査が実施され、遺構は検出できなかったが土師器等の破片が出土している⁽⁵⁾。

また、大口第3遺跡(4)は、日置川によって形成された東側の沖積平野南端部西方の丘陵から東へ向かって派生した尾根の山裾に位置する。大口第3遺跡は、大口古墳群(5)の範囲内にあり、尾根続きの丘陵上には大口第1遺跡(6)、大口第2遺跡(7)が存在する。大口第1・第2遺跡は、1984年・1988年に発掘調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代にかけての土壇墓や多数の貯蔵穴、竪穴住居跡、墳墓などが検出されている^(6, 7)。また、カヤマ遺跡(8)も同じ丘陵の山裾にあり、南東に250mしか離れていない。カヤマ遺跡は1981年発掘調査が行われ、弥生時代後期から奈良時代にかけての住居跡や古墳などが検出されている⁽⁸⁾。南には早牛遺跡^{はやうじ}(20)、早牛古墳群(21)、すぐ北には大坪古墳群^{おおつぼ}(22)が存在し、この大口第3遺跡の周辺は、弥生時代後期から古墳時代、さらに奈良時代以降へつながる遺跡の集中地帯で、時代ごとの遺跡の相互関係を検討できる貴重な地域である。

そのほかの青谷町内の主な遺跡は、次のとおりである。

旧石器時代の遺跡は、今のところ確認されていない。縄文時代の遺跡としては、砂丘地にある青谷高校の井戸掘り作業中偶然に発見された青谷第1遺跡(11)がある。ここでは、縄文時代中期から弥生時代、古墳時代にかけての土器片が出土している⁽⁹⁾。このほか縄文時代の遺跡としては、絹見部落周辺の石皿や石斧の出土地がある。

弥生時代の遺跡は、大口第3遺跡周辺の大口第1遺跡、大口第2遺跡、カヤマ遺跡、早



- | | | | |
|--------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 長谷古墳群 | 11. 青谷第1遺跡 | 21. 早牛古墳群 | 31. 吉川古墳群 |
| 2. 長和瀬寺田所在遺跡 | 12. 東山古墳 | 22. 大坪古墳群 | 32. 吉川43号墳 |
| 3. 長和瀬谷田所在遺跡 | 13. 阿古山古墳群 | 23. 奥崎古墳群 | 33. 水無瀬古墳群 |
| 4. 大口第3遺跡 | 14. 阿古山2号墳 | 24. 善田古墳群 | 34. 釜ノ口古墳群 |
| 5. 大口古墳群 | 15. 阿古山22号墳 | 25. 露谷古墳群 | 35. 石皿出土地 |
| 6. 大口第1遺跡 | 16. 養郷古墳群 | 26. 亀尻古墳群 | 36. 幡井神社 |
| 7. 大口第2遺跡 | 17. 蔵内水船遺跡 | 27. 鳴滝古墳群 | 37. 泊村池ノ谷遺跡 |
| 8. カヤマ遺跡 | 18. 蔵内古墳群 | 28. 神崎神社 | |
| 9. 長尾鼻古墳群 | 19. 利川神社 | 29. 相屋神社 | |
| 10. 長尾鼻1号墳 | 20. 早牛遺跡 | 30. 青谷第4遺跡 | |

挿図1 青谷町遺跡分布図

牛遺跡、相屋神社(29)近くの青谷第4遺跡(30) (ほぼ完形の壺を出土)、前述の青谷第1遺跡、1981年に発掘調査が行われた蔵内水船遺跡^{くらうちみづふね}(9)(17)、絹見部落周辺の土器・石斧出土地、北河原^{きたがわら}での挟入石斧出土地などがある。

古墳時代には、町の中央と東西の丘陵やその山裾に多数の古墳が造営された。今のところ古墳や集落・散布地などの分布は、海岸から6km以内に限られている。町内の古墳は、ほとんどが直径10～20mの円墳と思われ、海岸に向けて伸びる3つの丘陵台地上ないしは山裾に存在する。

東側の台地・丘陵上には、北側から町内最大の前方後円墳長尾鼻1号墳(10) (長さ34m) を有する長尾鼻古墳群(9)、町内第2の前方後円墳東山古墳^{ひがしやま}(12) (青谷2号墳、全長28m)、前方後円墳である阿古山2号墳^{あこやま}(14) (全長23.5m) と船や星などの線刻壁画がほどこされて県史跡に指定されている阿古山22号墳^{あこやま}(10)(15) (全長6.1m, 奥壁幅2.5m, 高さ3.0m) を有する阿古山古墳群(13)、養郷古墳群^{ようごう}(16)、さらに1988年に発掘調査された3基の古墳を有する蔵内古墳群^{くらうち}(11)(18)と続く。

次に中央の丘陵には、北から露谷古墳群^{つゆだに}(25)、その西に亀尻古墳群^{かめじり}(26)、東に善田古墳群^{よしだ}(24)があり、さらに南東には町の史跡指定の奥崎古墳群^{おくさき}(23)、大坪古墳群、大口古墳群、早牛古墳群が連なっている。また、台地を挟んで反対の西側の谷に面した山裾には、金環が出土した鳴滝古墳群^{なるたき}(27)がある。

最後に西側の丘陵上には、相屋神社から南方の丘陵上には船の線刻壁画がほどこされた吉川43号墳^{よしかわ}(10)(32)を有し約80基の古墳が連なる吉川古墳群(31)があり、その西側の丘陵上には北から水無瀬古墳群^{みなせ}(33)、長谷古墳群、釜ノ口古墳群と続いている。

この時代の古墳以外の遺跡は、縄文・弥生時代の項で述べたように、青谷第1遺跡、大口第1遺跡、大口第2遺跡、カヤマ遺跡、早牛遺跡が主なものである。

奈良時代の遺跡としては、カヤマ遺跡があるのみで、遺物の発見も少ない。

歴史上の資料としては、因幡国の官道に置かれた4カ所の駅のうちの「柏尾駅」の有力な候補地と言われる相屋神社周辺や、勝部^{かちべ}・日置^{ひおき}といった部民制度に由来するといわれる郷名が残っている⁽¹²⁾。また、やや時代は下るが、町内の式内社である利川神社(19)と幡井神社(36)がそれぞれ早牛・絹見に、式外社である相屋神社と神前神社^{かみざき}(28)がそれぞれ青谷・鳴滝にある⁽¹²⁾ことは、遺跡との関わりが考えられる。

第3章 調査の概要

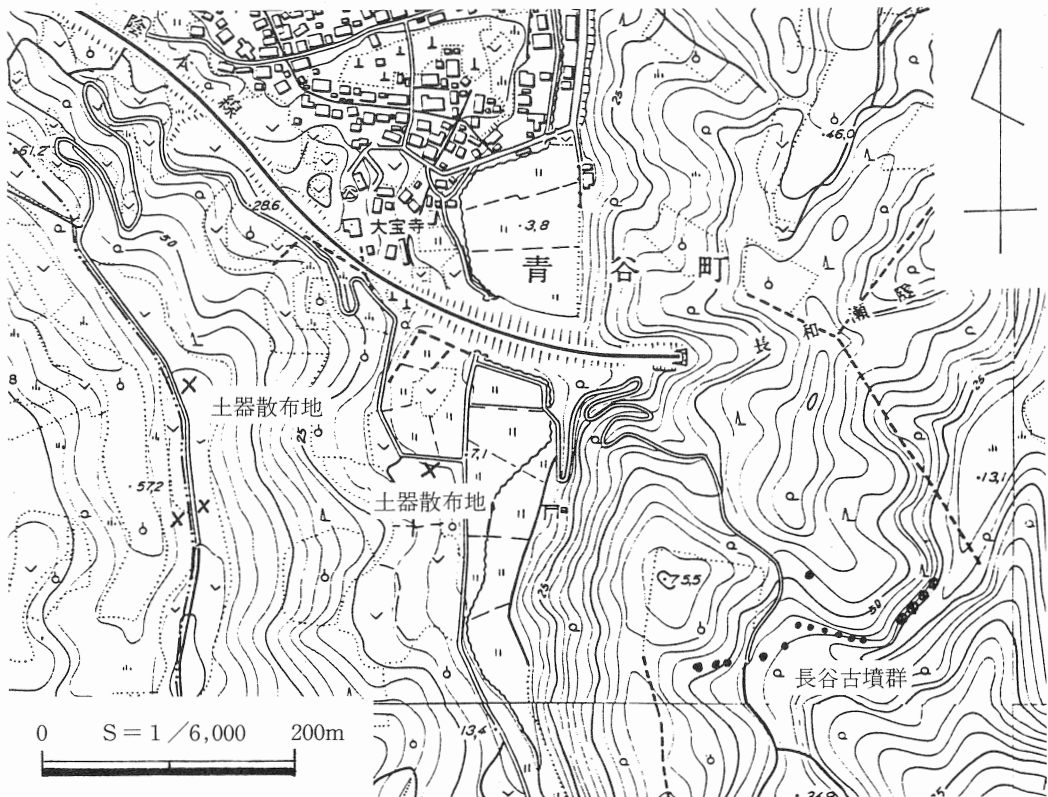
第1節 長谷古墳群

(1) 調査の方法

この試掘調査は、一般国道9号青谷・羽合道路（青谷・泊工区）新設工事に伴って工事予定区域内において実施した。

この地域は、長和瀬集落の南東丘陵上に位置し、東向きあるいは南向きの斜面には16基からなる周知の長谷古墳群が存在している。このため、古墳の存在する範囲と他の遺構の存在を確認するため、トレンチによって調査した。

トレンチは、工事区域内において、当初1.5×5.0mを基準として10カ所設定した。しかし、立木等の障害により規模を縮小し、さらに4カ所を増設し、計14カ所（71.24m²）のトレンチを順次掘り下げた。



挿図2 長和瀬周辺位置図

(2) トレンチの概要

第1～4・11・14トレンチ

トレンチは、丘陵上の平坦地に第1～4トレンチを設定し、確認のため第11・14トレンチを増設した。

このトレンチは、それぞれ傾斜に対して平行に約20～40cm掘り下げたところで、地山である第3層明赤褐色土に達した。

いずれのトレンチからも、遺構・遺物とも検出できなかった。

第5・7トレンチ

このトレンチは、工事予定区域の南側にあたり、丘陵南向き斜面に位置する。

この地域は、以前に開墾され梨が栽培されていた。

このトレンチでは、約20～40cm掘り下げたところで、地山である第4層明赤褐色土に達した。

いずれのトレンチからも、遺構・遺物とも検出できなかった。

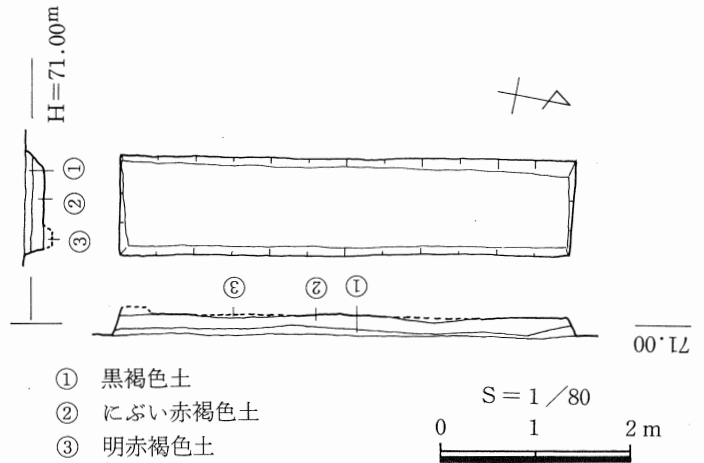
第6トレンチ

このトレンチは、第5トレンチの南に存在する周知の長谷7号墳の及ぶ範囲を確認するため設定した。

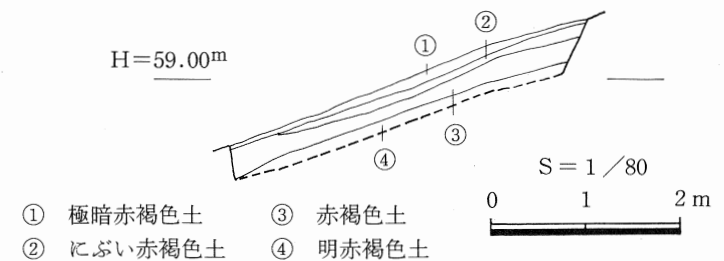
長谷7号墳は、現在この古墳群の中でも最も高い位置にあり、横穴式石室が北側奥壁の背面は土に覆われているも

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.0×3.1	なし	なし
T 2	1.1×5.0	なし	なし
T 3	1.3×3.0	なし	なし
T 4	1.3×3.8	なし	なし
T 5	1.6×3.8	なし	なし
T 6	1.5×4.6	周溝	なし
T 7	1.2×4.0	なし	なし
T 8	1.1×2.7 1.1×4.0	なし	なし
T 9	1.0×2.8	なし	なし
T 10	1.0×3.8	なし	なし
T 11	1.3×4.6	なし	なし
T 12	1.0×5.0	なし	なし
T 13	1.1×5.4	なし	なし
T 14	0.9×5.7	なし	なし

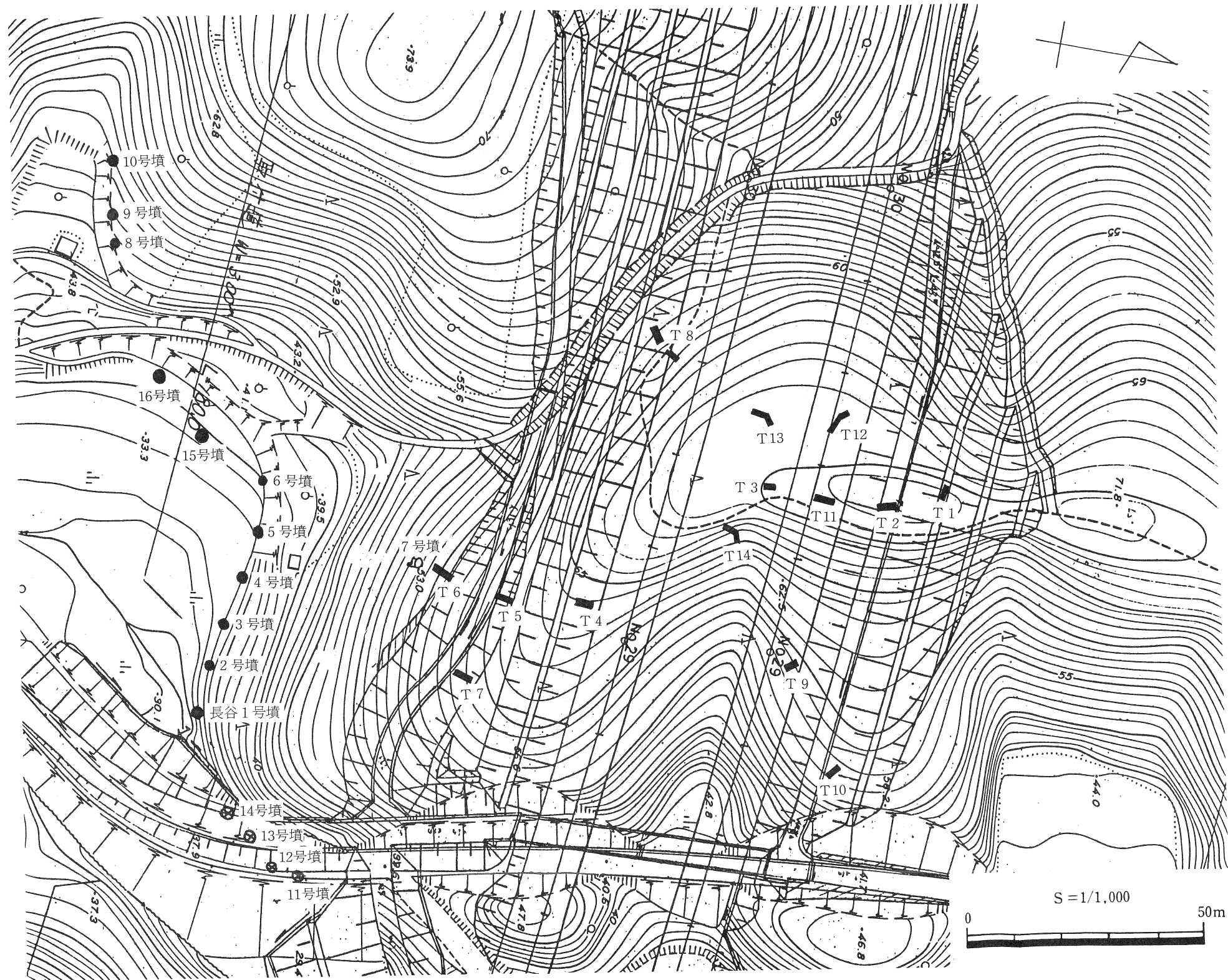
表1 長谷古墳群試掘トレンチ一覧表



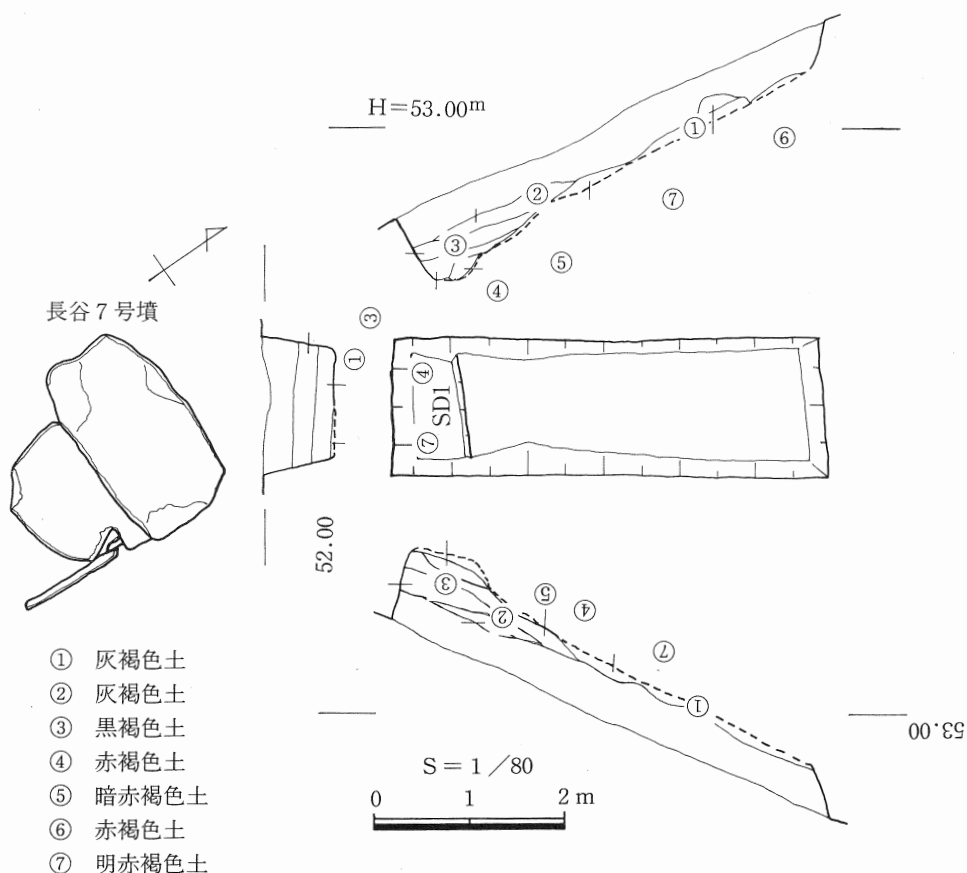
挿図3 第2トレンチ平面図及び土層図



挿図4 第5トレンチ土層図 (西側壁)



挿図5 長谷古墳群試掘トレンチ配置図



挿図6 第6トレンチ平面図及び土層図

の、ほとんどが露出した状態である。ほぼ南北に主軸をとり、南方向に開口している。詳細の調査は行っていないが、奥壁1枚、右側壁2枚、左側壁2枚、天井石2枚が残存し、石室の規模は現状で全長265cm、幅170cm、奥壁側の推定高110cmである。

このトレンチは、奥壁の北北東約2mに設定し、周溝の確認のため掘り下げた。耕作土を約25~40cm掘り下げたところで周溝(SD1)を検出した。SD1は、トレンチの範囲で幅190cm、深さ50cmを測った。

遺物は検出できなかった。土地所有者から、梨園の開墾時にはこの古墳の周囲で土器の破片が出土した、と聞かされたが、現在土器の所在は不明である。

第8・12・13トレンチ

このトレンチは、丘陵西側の斜面に設定し、掘り下げた。約20~30cm掘り下げ地山である第2層赤褐色土に達した。しかし、第8-2トレンチにおいては、約10~20cmで地山層

に達したため、さらに約30～60cm掘り下げたが、地層の変化は地山の風化の変化と考えられ、遺構・遺物とも検出できなかった。

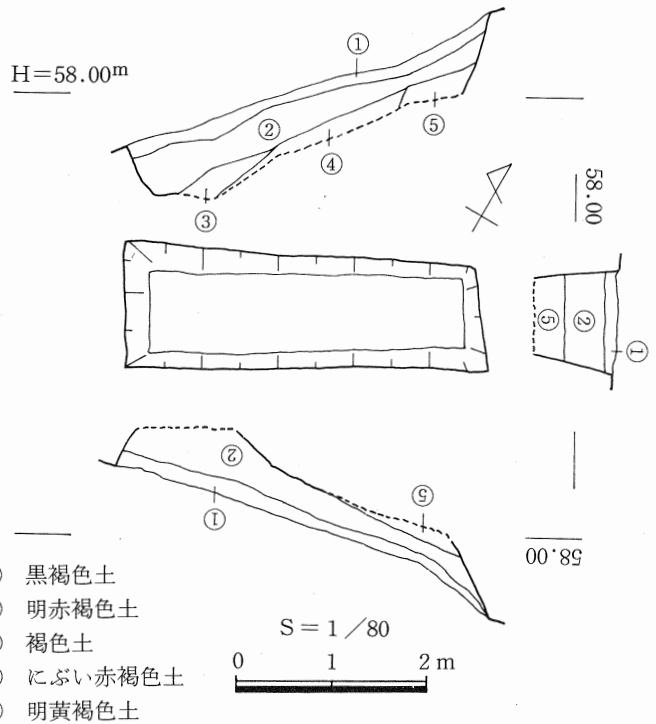
第9・10トレンチ

丘陵から東に派生する尾根上に第10トレンチを、その谷間部に第9トレンチを設定した。

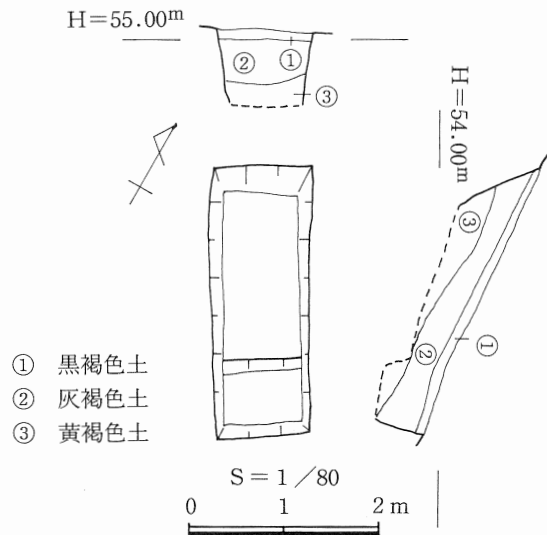
第10トレンチでは、約30cmで地山層に達し、遺構・遺物とも検出できなかった。

また、第9トレンチでは、谷間部にあたり上部からの堆積が多く、約30～50cmで地山である第3層黄褐色土に達した。

このトレンチからは、遺構・遺物とも検出できなかった。



挿図7 第8-2トレンチ平面図及び土層図



挿図8 第9トレンチ土層図(北側壁)

第2節 長和瀬寺田所在遺跡

(1) 調査の方法

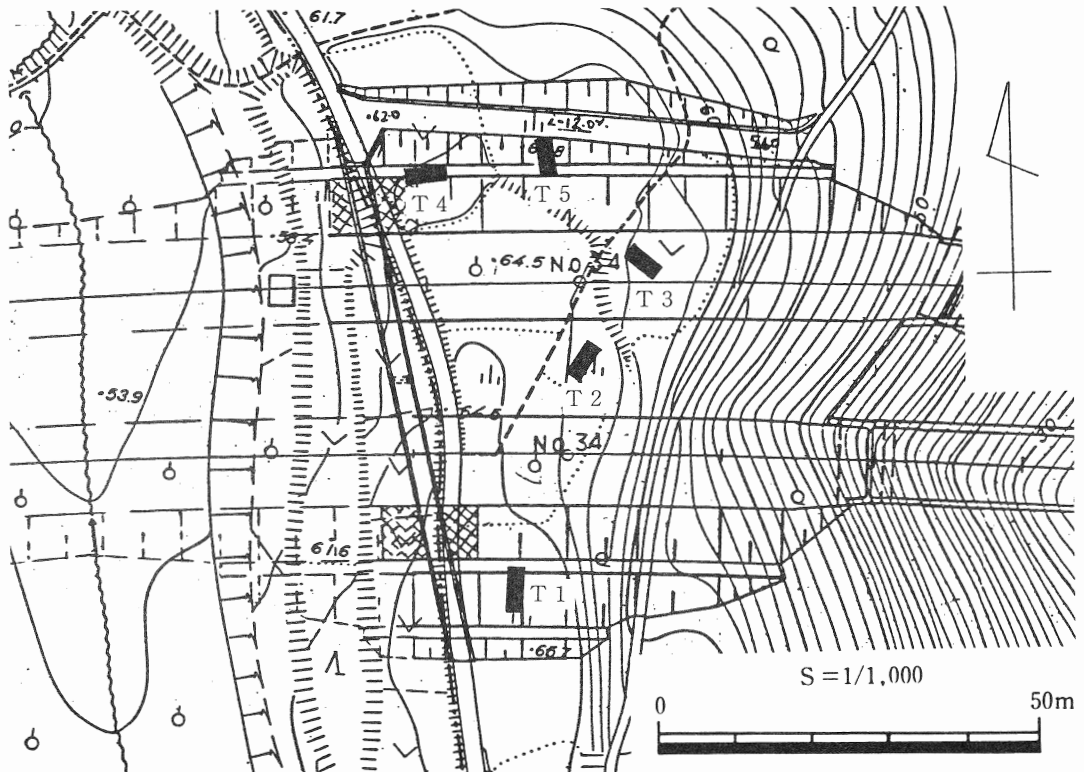
この試掘調査は、一般国道9号青谷・羽合道路（青谷・泊工区）新設工事に伴って工事予定区域内において実施した。

この地域は、長和瀬集落の南西丘陵上に位置し、土器の散布が確認されている。このため、遺跡の性格と範囲を確認するため、トレンチによって調査した。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.8×4.7	なし	なし
T 2	1.8×4.9	なし	なし
T 3	2.1×4.9	なし	なし
T 4	2.1×4.8	なし	なし
T 5	2.0×4.7	なし	なし

表2 長和瀬寺田所在遺跡試掘トレンチ一覧表

トレンチは、工事区域内において、中央部で梨が栽培されていたため、南側及び北側に2.0×5.0mを基準として5カ所設定（47.05m²）し、順次掘り下げた。



挿図9 長和瀬寺田所在遺跡試掘トレンチ配置図

(2) トレンチの概要

第1・2トレンチ

このトレンチは、工事区域内の南側に設定した。この土地は、以前梨が栽培されていたが、現在荒れ地となっている。

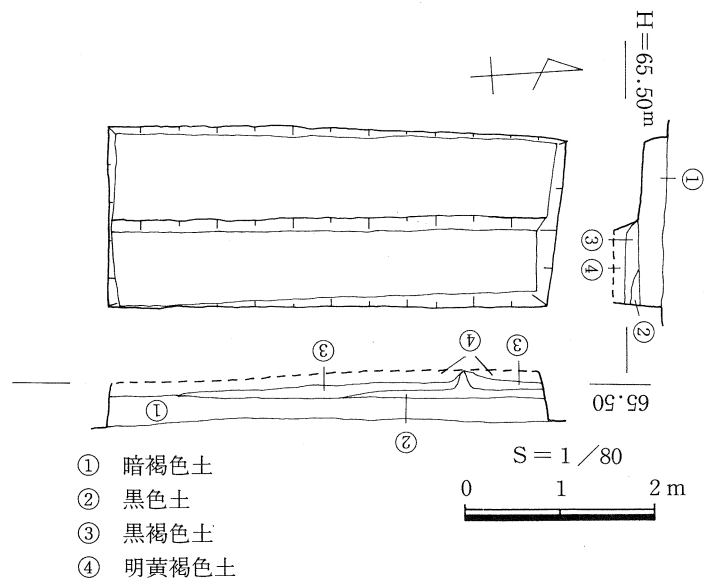
このトレンチでは、耕作土を約30~60cm掘り下げたところで、地山である明黄褐色土に達した。遺構・遺物とも検出できなかった。

第3~5トレンチ

このトレンチは、工事区域内の北側に設定した。この土地は、畑として耕作されていたが、第4トレンチのみは荒れて笹が茂った状態であった。

このトレンチは、いずれも耕作土を約15~30cm掘り下げたところで、地山である明黄褐色土または橙色土に達した。

いずれのトレンチでも、遺構・遺物とも検出できなかった。



挿図10 第1トレンチ平面図及び土層図

第3節 大口第3遺跡

(1) 調査の方法

この試掘調査は、牛舎建設用地造成に伴い、造成予定区域内において昨年度及び本年度の2カ年に分けて実施した。

この地域は、1978年の広域農道新設計画に伴う事前踏査により、10基の古墳の存在が確認され、また1989年には尾根続きの山頂で大口第2遺跡（墳墓9基、竪穴住居跡2基、袋状土壇5基）の発掘調査が実施されている。

昨年度の試掘調査は、大口第2遺跡から北東に派生する丘陵の先端部、東に派生する丘陵先端部、及びその山裾部について23カ所のトレンチを設定し調査された。その結果、竪穴住居跡3基、土壇1基、古墳の周溝2条の存在が確認され、大口第3遺跡として報告した。

今年度の試掘調査は、大口第2遺跡から北東に派生する丘陵上に第1～5トレンチを、その丘陵の東側斜面中腹に第6・7トレンチを、また大口第2遺跡から東に派生する丘陵の北側斜面中腹に第8～10トレンチを設定した。

この結果、箱式石棺を含む埋葬施設3基を第3・8・9トレンチで、古墳の周溝と思われる溝5条を第1・8・9トレンチで検出した。

トレンチの規模は、1.5m×5.0mを基準としたが、地形や遺構の検出状況によって変更した。調査面積は、52.91m²である。

(2) トレンチの概要

第1トレンチ

北東に伸びる丘陵上に設定した。このトレンチでは、第3層まで約30～60cm掘り下げたところで周溝と思われる溝2条（SD1・2）を確認した。SD1・SD2は互いに重複した状態で検出されたが、その重複関係から判断して、新しい順にSD2・SD1と推定できる。

SD1は、SD2に先行して掘られているが、トレンチの範囲で判断して、丘陵の伸びに対してほぼ直角に幅170cm、深さ80cmを測る。

トレンチ番号	トレンチの規模 (m)	遺構	遺物
T 1	1.4×3.8	溝 2	土師器片
T 2	1.2×4.7	なし	なし
T 3	1.1×4.1	箱式石棺 1	土師器片
T 4	1.3×5.0	なし	なし
T 5	1.0×3.0	なし	なし
T 6	1.3×4.2	なし	なし
T 7	1.1×3.4	なし	なし
T 8	1.3×2.1 1.5×3.8	土壇墓 1 溝 2	土師器片 鉄器
T 9	1.5×3.7	箱式石棺? 溝 1	なし
T 10	1.4×3.4	なし	土師器片

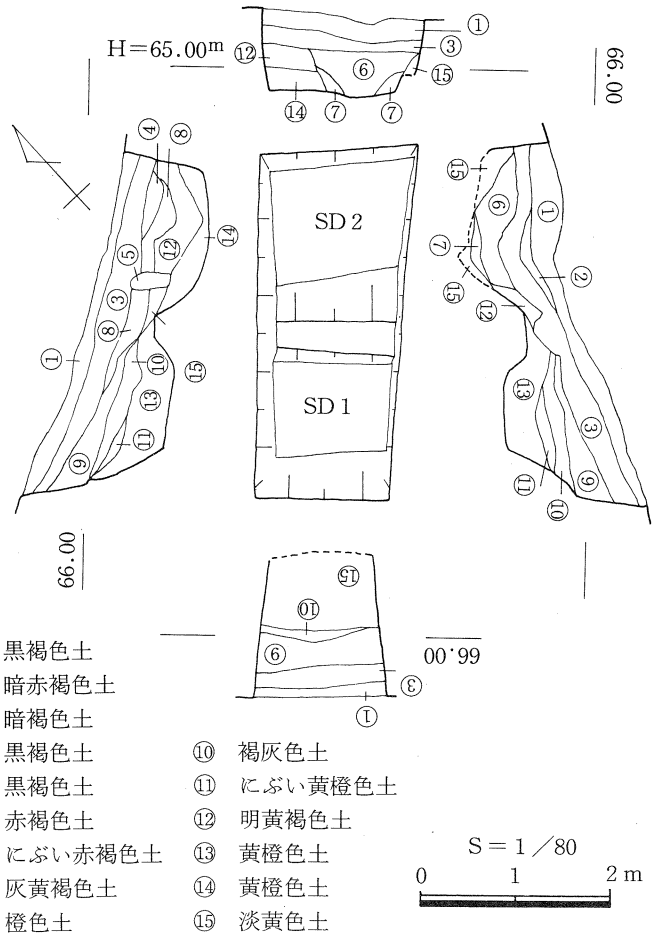
表3 大口第3遺跡試掘トレンチ一覧表

SD2は、SD1の一部を掘り込んで造営されている。トレンチの範囲で判断して、丘陵の伸びにほぼ直角に、幅250cm、深さ70cmを測る。

また、SD2を掘り込んで造成されている溝状のものは、ビニール製品が混入していることから、開墾時または梨栽培時の肥料穴であると判断した。

遺物は土師器片18点が出土した。このうち図化できたのは、SD1から出土した甕 (Po01)、小型丸底壺 (Po02)、高坏 (Po03)、鼓形器台 (Po08)、及びSD2から出土した高坏 (Po04~07) である。

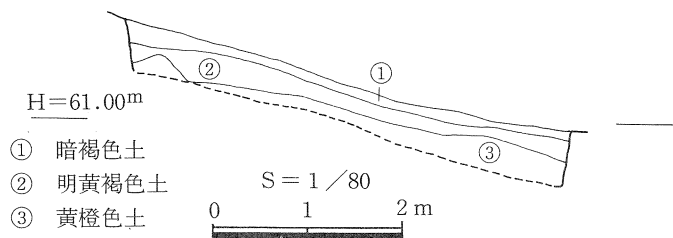
出土遺物から、時期はSD1・SD2とも古墳時代前期であると考えられる。



挿図11 第1トレンチ平面図及び土層図

第2トレンチ

第1トレンチから北東に約13m離れた丘陵上で、約3mほど低い緩斜面に設定した。

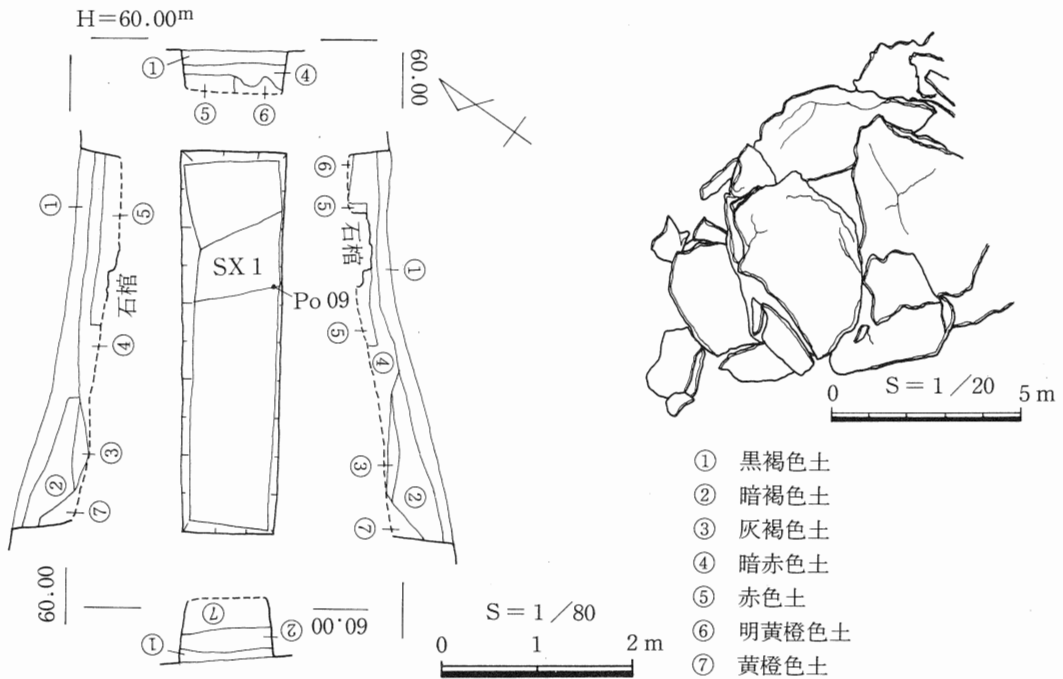


挿図12 第2トレンチ土層図 (西側壁)

このトレンチでは、約20~50cmの表土を掘り下げたところで、地山である第3層黄橙色土に達した。このトレンチでは、遺構・遺物とも検出できなかった。



挿図13 大口第3遺跡試掘トレンチ配置図



挿図14 第3トレンチ平面図及び土層図、石棺平面図

第3トレンチ

第3トレンチは、第2トレンチから北東に約2m離れた丘陵上で、緩斜面から平坦部への変換点に設定した。

このトレンチでは、黒褐色の表土を約10~15cm掘り下げたところで、トレンチ北東部で第4層暗赤色土に達した。

南西部では、堆積土層である第2層暗褐色土を確認し、さらに約50cm掘り下げたところで、地山と第4層暗赤色土の断面を確認した。

さらに、北東部の第4層を約10cm掘り下げ、第5層赤色土及び箱式石棺(SX1)の蓋石と見られる板石を検出した。

また、この地域は、以前に梨が栽培されていたと所有者から聞かされ、墳丘は開墾時に削平された可能性もあると考えられる。

SX1は、主軸方位をN-45°-Eにとり、幅70cmを測る。蓋石が足側から架構されていると考えるならば、頭位は南東方向と推定される。SX1は、周囲を第5層赤色粘性土により固め、さらに真砂土混じりの第4層暗赤色土で取り囲み、造営されている。

遺物は、SX1蓋石の南側隅で、土師器甕片(Po09)が出土したのみである。

SX1の時代は、遺物から古墳時代前期と考えられる。

第4・5トレンチ

第3トレンチから北東丘陵上に、約6m離れて第4トレンチを、さらに約6m離れて第5トレンチを設定した。

第4トレンチでは約30~70cm、第5トレンチでは約30~40cm掘り下げた地山に達した。

これらのトレンチでは、遺構・遺物とも検出できなかった。

第6・7トレンチ

第6トレンチは第3トレンチから南東約13m、第7トレンチは第5トレンチから東約11mの、丘陵東向き斜面の中腹に設定した。

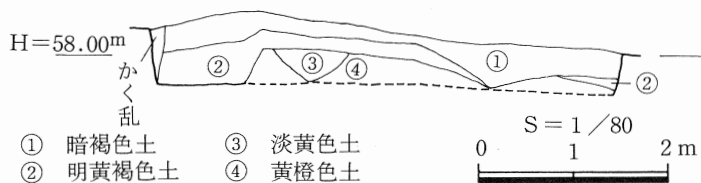
このトレンチでは、ほぼ斜面と水平に50~90cm掘り下げたところで地山に達した。この地域は、上部からの流入土が多く堆積していると考えられる。

このトレンチでは、遺構・遺物とも検出できなかった。

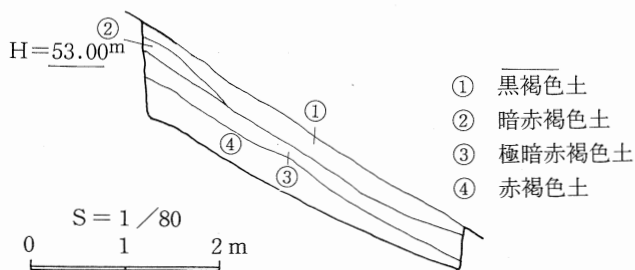
第8トレンチ

第8トレンチは、大口第2遺跡から東に伸びる丘陵で、さらに北東方向に膨らむように派生した尾根の北向き斜面中腹に設定した。この尾根は、二段の緩やかな段状をなし、第8トレンチは、この段のほぼ中間点にあたる。

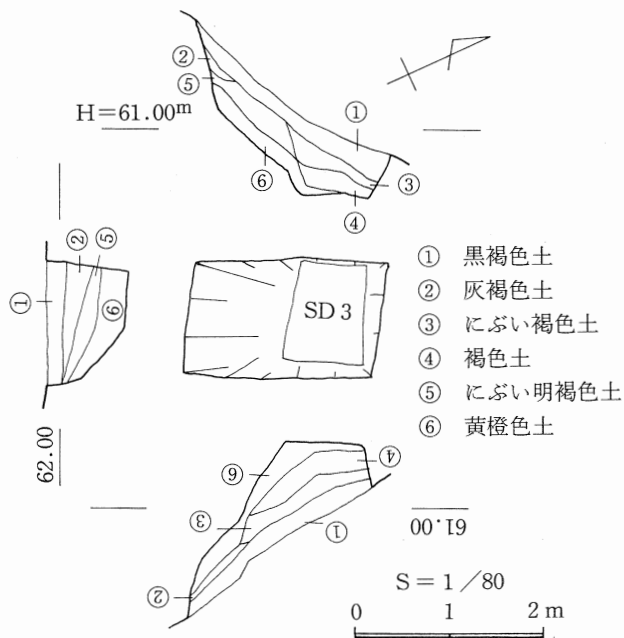
第8トレンチを設定するにあたり、立木の障害があったため第8-1・第8-2トレンチと分断して掘り下げた。



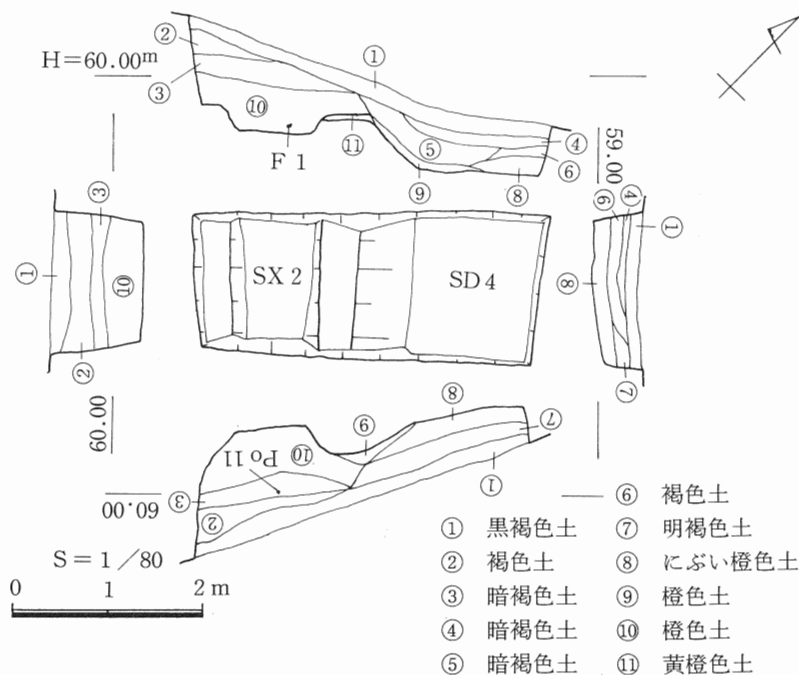
挿図15 第4トレンチ土層図(西側壁)



挿図16 第7トレンチ土層図(北側壁)



挿図17 第8-1トレンチ平面図及び土層図



挿図18 第8-2トレンチ平面図及び土層図

第8-1トレンチは、表土を約20cm掘り下げたところで古墳の周溝と考えられる溝(SD3)を検出した。SD3は、トレンチの範囲で尾根の伸びに対してほぼ直角に、幅130cm、深さ50cmを測る。

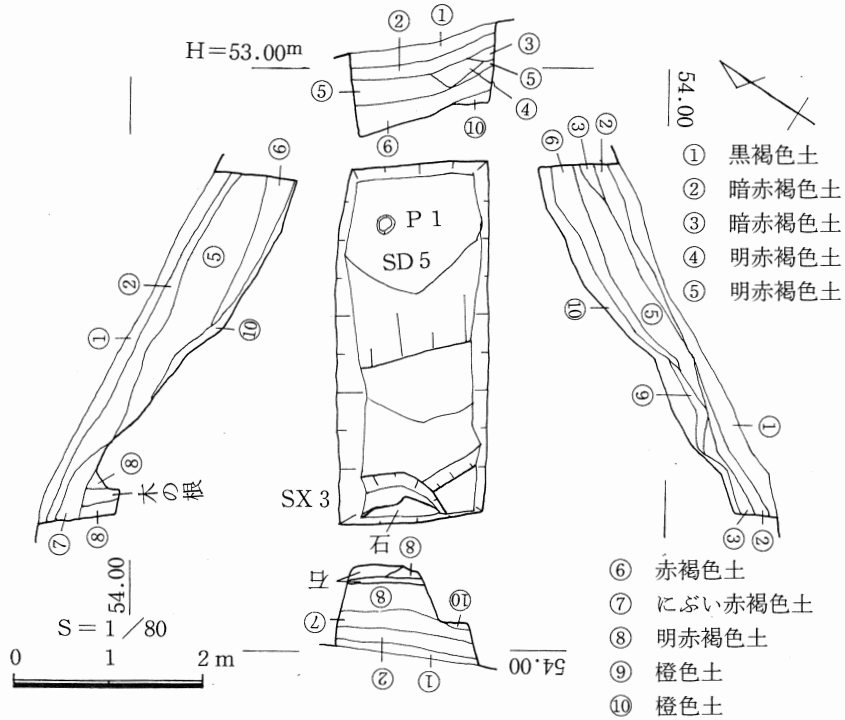
第8-2トレンチは、表土を約20cm掘り下げたところで、トレンチの北東部に、古墳の周溝と思われる溝(SD4)を確認した。さらに、まだ地山には達していないため掘り下げた。その結果、トレンチの南西部で箱式木棺と思われる埋葬施設(SX2)を検出した。

SD4は、トレンチの範囲内で判断し、尾根の伸びに対してほぼ直角に、幅200cm、深さ50cmを測る。

SX2は、土層から判断して不明確ではあるが、底幅40cmを測る。このトレンチの範囲内では小口痕は見られなかったが、第3層上部で出土した土師器低脚坏(Po11)は棺の上に乗せられたものであり、床面から浮いた状態で出土した鉄製鎌(F1)は棺内に副葬されたものであるという考えから、箱式木棺墓であると判断した。また、第2・3層はSX2の盛土と考えられ、その後SX2を切るようにSD4が造営されたものと判断した。

遺物は、土師器片12点及び鉄製鎌が出土したが、図化できたものはわずかにSX2から出土した高坏片(Po10)、低脚坏(Po11)、鉄製鎌(F1)のみである。

SX2の時期は、遺物から古墳時代前期と考えられる。



挿図19 第9トレンチ平面図及び土層図

第9トレンチ

第9トレンチは、第8トレンチの北東斜面に設定した。

このトレンチでは、表土を約20~40cm掘り下げたところで古墳の周溝と思われる溝(SD5)を確認した。さらに掘り下げ、箱式石棺と見られる埋葬施設(SX3)を検出した。

SD5は、トレンチの範囲内で判断し、尾根の伸びに対してほぼ直角に、幅280cm、深さ70cmを測る。またSD5の北側では、ピット1基(P1)が検出された。規模は10×10×24cmを測る。

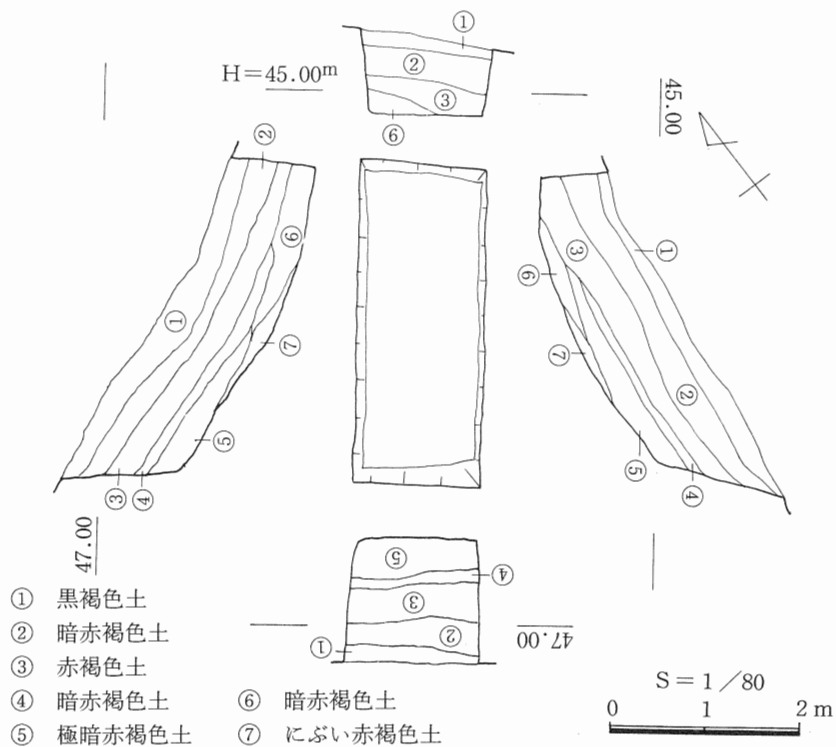
SX3は、トレンチの南西端に、蓋石及び側石と思われる板石各1枚がわずかに見える程度で検出した。土層から第8層が埋土、第7層が盛土であると判断した。

このトレンチからは、遺物は出土していない。

第10トレンチ

第10トレンチは、第9トレンチの北東斜面の裾部に設定した。

このトレンチでは、約100~120cm掘り下げたところで地山と見られる第8層橙色土に達した。山裾部にあたり、上部からの堆積が厚いと考えられ、遺構は検出できなかった。遺物は、第2層で土師器小片1点が出土したが、上部からの転落によるものと思われ、図化できなかった。



挿図20 第10トレンチ平面図及び土層図

第4章 まとめ

(1) 長谷古墳群

今回試掘調査を行った範囲については、遺構・遺物とも検出できなかった。

しかしながら、この地域の周辺には12基の古墳が現存し、さらにこの丘陵の北側には未確認ながら開墾時に箱式石棺が発見されたとの話も聞かれることから、この周辺には遺跡の存在する可能性も残っていると考えられる。

このため、今後の開発事業等計画時には再度試掘調査等を行う必要がある。

(2) 長和瀬寺田所在遺跡

今回試掘調査を行った範囲については、遺構・遺物とも検出できなかった。

しかしながら、土器の散布も少量ながら有り、近辺に遺跡が存在することから、この地域周辺において今後の開発事業等が計画される場合には、再度試掘調査を行う必要があると考える。

(3) 大口第3遺跡

今回試掘調査を行った区域は、1988年発掘調査を実施した大口第2遺跡から北東側及び東側に伸び出した丘陵上及び中腹斜面に位置する。

まず、北東に伸び出した丘陵上に設定した第1トレンチで古墳の周溝と思われる溝2条、第3トレンチで箱式石棺を検出した。続いて、この丘陵東向き斜面に第6・7トレンチを設定したが、ここでは遺構・遺物は検出できなかった。最後に、大口第2遺跡から東に伸びる丘陵からさらに北東方向に膨らむように派生した尾根の北向き斜面に設定した第8・9トレンチでは、古墳の周溝と思われる溝3条と、木棺墓と思われる埋葬施設1基及び箱式石棺の一部1基を検出した。

また、遺物は第1・3・8～10トレンチで土師器片が、第8トレンチでは鉄製鎌が出土した。これらの出土遺物から、時期は古墳時代前期と考えられる。

今回及び昨年度の試掘調査、また以前に行われた大口第2遺跡発掘調査から、この地域は、丘陵上を中心として古墳群が、山裾周辺には弥生時代後期から古墳時代にかけての居住地が存在していたと考えられる。

今後、開発事業者とさらに協議を重ねながら、この遺跡の性格・範囲を確認するとともに、より一層埋蔵文化財保護の啓発に努めることが必要であると考えられる。

参考文献等

- (1) 『青谷町誌』 青谷町誌編さん委員会 1984年
- (2) 『長谷古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (3) 『旧石器・縄文時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財センター 1988年
- (4) 『弥生時代の鳥取県』 鳥取県埋蔵文化財センター 1987年
- (5) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書II』 青谷町教育委員会 1993年
- (6) 『大口古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1985年
- (7) 『大口遺跡群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (8) 『カヤマ遺跡試掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1982年
- (9) 『青谷町内遺跡発掘調査報告書I』 青谷町教育委員会 1992年
- (10) 『鳥取県の古墳』 鳥取県埋蔵文化財センター 1986年
- (11) 『蔵内古墳群発掘調査報告書』 青谷町教育委員会 1989年
- (12) 『鳥取県史』 1 原始・古代 鳥取県

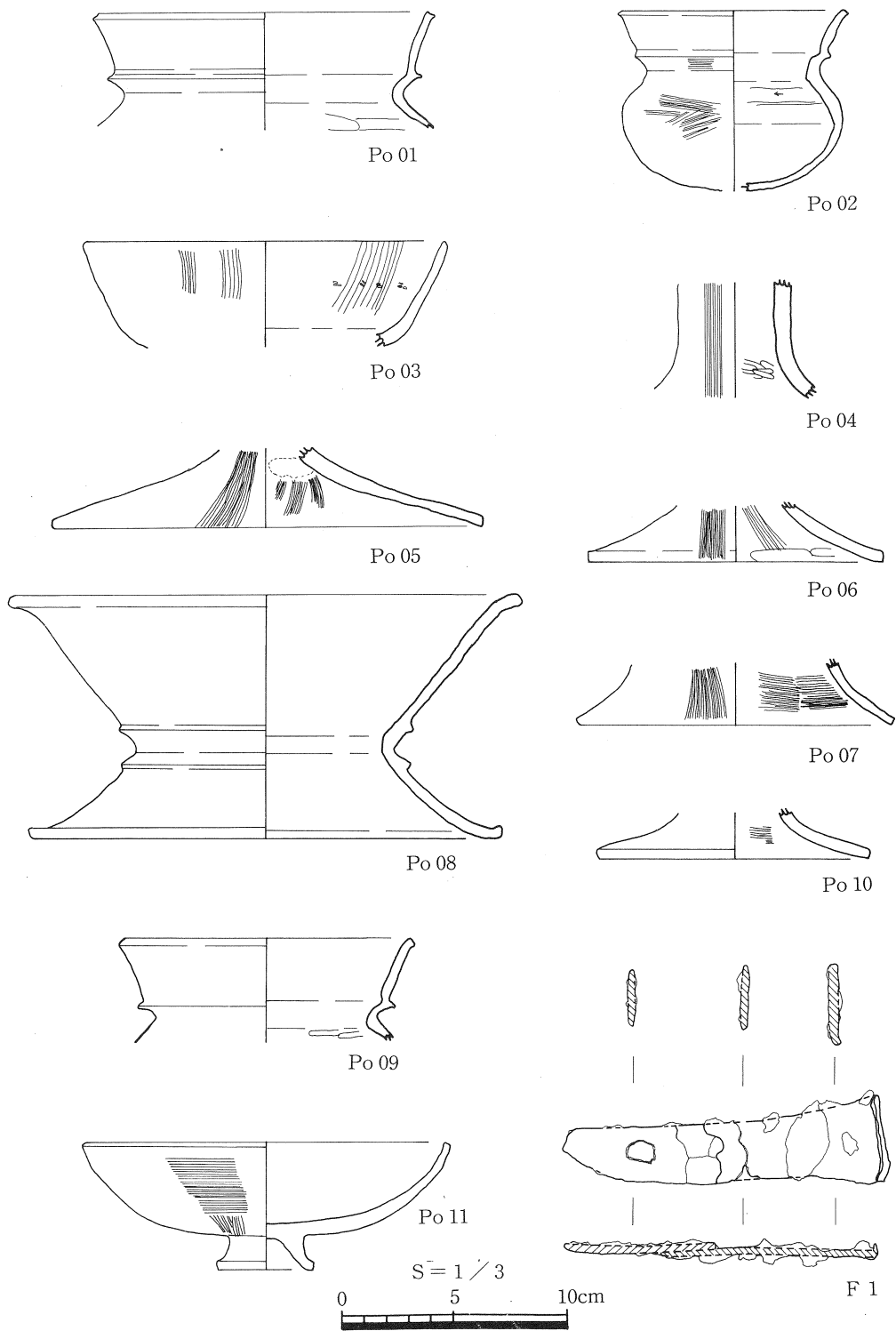


插图21 大口第3遺跡出土遺物実測図

出土位置	土器番号	取上番号	器種	法量(cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	①胎土、②焼成③色調	備考
T 1	Po 1	04	土師器 甗	①14.3※ ② 4.9△ ⑤ 2.9※	直立気味に外反して外傾する複合口縁。口唇端は押さえた面を持ち、口縁部下端は鋭く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。頸部内面は丸みを持って「く」の字状に屈曲する。	外面…ヨコナデ。口唇端は擬凹線後ヨコナデ。内面…口縁部～頸部ヨコナデ。以下ヘラケズリ。	①緻密。 ②良好 ③橙色	
	Po 2	10	土師器 小型丸底壺	①10.0※ ② 7.9△ ③ 9.7※ ⑤ 2.0	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。口唇端は押さえた面を持ち外方に肥厚する。口縁部下端は外方に突出する。口縁部内面の段はゆるやか。頸部内面は、「く」の字状に屈曲し、胴部は最大胴径がやや上位にある。底部は欠く。	外面…口縁部～頸部は丁寧なヨコナデ。肩部以下ヨコ、ナナメ方向のハケメ後、ナデ消し。内面…風化著しく不明瞭。口縁部～頸部ヨコナデ。以下左方向ヘラケズリ。	①緻密。(1～2mmの石英含む) ②良好 ③外面…にぶい黄橙色。内面…浅黄橙色。	外面及び内面の一部に赤色塗彩痕跡有り。
	Po 3	05	土師器 高坏(脚)	①15.6※ ② 4.6△	坏底部から内湾しながら外傾して立ち上がる。口唇端はやや角張る。	外面…坏体部から口縁にかけてタテ方向ヘラミガキ。内面…タテ方向のハケ状工具痕を残す、小単位のヘラミガキが見られるが、方向は不明瞭。	①緻密。(1～2mmの石英含む) ②良好 ③にぶい黄橙色。	
	Po 4	07	土師器 高坏(筒)	② 5.1△	太めの筒部。坏部、脚裾部を欠く。脚部に直径10mm程度の円孔が見られ、二～三方の透かしが推定される。	外面…タテ方向のハケメ。内面…ヨコナデ。	①緻密。 ②良好 ③にぶい橙色。	
	Po 5	01	土師器 高坏(脚)	② 3.4△ ⑥19.0※	大きく「八」の字に開き、裾部で水平気味を呈する。脚端部は直立気味で角張る。脚中位下部に径9mmの円孔が見られ、二～三方の透かしが推定される。	外面…ナナメ方向ハケメ調整後ナデ仕上げ。脚中位下部にヨコ方向のヘラミガキ。内面…ナナメ方向ハケメ調整後ヨコナデ。筒部下位には指頭圧痕が見られ、筒部はヘラケズリが見られる。	①緻密。(1～2mmの石英含む) ②良好 ③にぶい橙色。	
	Po 6	08	土師器 高坏(脚)	② 2.5△ ⑥13.0※	大きく「八」の字に開く脚部。脚端部は直立気味で角張る。脚中位下部に円孔痕がわずかに見られる。	外面…ナナメ方向ハケメ後ナデ。内面…ナナメ方向ハケメ後丁寧なナデ。	①緻密。 ②良好 ③にぶい橙色。	外面一部スス付着
	Po 7	09	土師器 高坏(脚)	② 2.7△ ⑥13.0※	大きく「八」の字に開く脚部。脚端部は直立気味で角張る。脚中位下部に円孔痕がわずかに見られる。	外面…タテ方向ハケメ後ナデ。内面…脚部ヨコ方向ハケメ後ナデ。筒部ヨコ方向ヘラケズリ	①緻密。 ②良好 ③やや淡い橙色。	
	Po 8	03	土師器 鼓形器台	①22.3※ ②20.5△ ⑥10.7※	逆「八」の字状に開く受部は弱く内湾気味に外傾し、口縁部で外反し、口唇端は丸くおさめる。筒部は寸詰まりで短く、稜は小さくつまみ出す。脚部は弱く内湾して「八」の字状に開き、裾部付近で水平気味に外反し、脚端部で丸みをもって上方に肥厚する。脚部には直径7mmの未貫通の透かしが見られる。	外面…受部はハケ状工具痕を残す丁寧なヨコナデ。脚部はハケ状工具痕を残す丁寧なヨコナデ。内面…受部は丁寧なヨコ方向ヘラミガキ。筒部はヘラケズリ後ヨコナデ。裾部は二段階にヨコナデが施されている。	①緻密。 ②良好。 ③にぶい橙色。	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③胴部最大径、④底部径、⑤複合口縁線上がり長、⑥高坏脚径、である。また、復元した計測値に※印、残存値に△印を付した。

挿表 4 出土遺物観察表 1

出土位置	土器番号	取上番号	器種	法量 (cm)	形態上の特徴	手法上の特徴	①胎土、②焼成 ③色調	備考
T 3	Po 9	12	土師器 甕	①12.7* ② 4.4△ ⑤ 3.0	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。口唇端は押さえた面を持ち、外方に肥厚する。口縁部下端は外方に突出する。口縁部内面の段はゆるやか。頸部内面は「く」の字に屈曲する。	外面…口縁部～頸部は丁寧なヨコナデ。以下わずかにハケメ痕が残るが、風化著しく不明瞭。 内面…口縁部～頸部ヨコナデ。以下左方向ヘラケズリ。	①緻密。 ②やや良好 ③にぶい黄橙色。	
T 8	Po10	14	土師器 高坏(脚)	② 1.5△ ⑥12.0	大きく「八」の字状に開く脚部。脚端部は直立気味で角張る。	外面…風化著しく不明瞭。ヨコナデ?。 内面…ヨコ方向ハケメ後ヨコナデ。	①緻密。 ②良好 ③淡黄色。	
	Po11	21	土師器 低脚坏	①16.0* ② 5.3△ ⑥ 4.1	やや外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁。口唇端は不明瞭。口縁部下端はそのまま屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。頸部内面は2段に屈曲する。	外面…口縁部は平行沈線後ヨコナデ。頸部ヨコナデ。 内面…風化著しく不明。	①密。(1～2mmの石英含む) ②良好 ③淡黄橙色。	

註…法量の○数字は次のとおりとする。①口径、②器高、③胴部最大径、④底部径、⑤複合口縁立上がり長、⑥高坏脚径である。また、復元した計測値に*印、残存値に△印を付した。

出土位置	遺物番号	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	形態上の特徴	備考
T 8	F 1	鉄鎌	14.5	3.9	0.5	にぶい片刃状を呈する鉄製鎌。 先端から4cmで2片がゆ着するが、1個体の先端が折れて重なっているものと思われる。 基部でJ字状に曲がる。端部方向に内湾して細る。 基部側は、やや肉厚であるが、約2cmで刃側が尖り、刃部を形成する。	

挿表5 出土遺物観察表2

版 圖

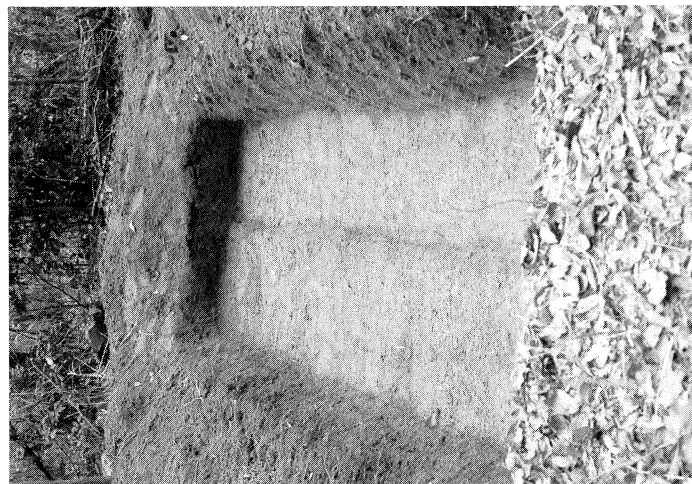
長谷古墳群遠景
(南から)



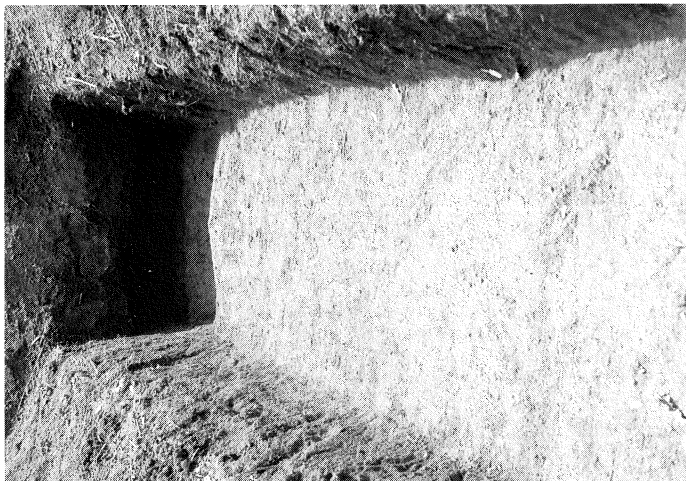
第2 トレンチ完掘状況
(北から)



第5 トレンチ完掘状況
(北から)



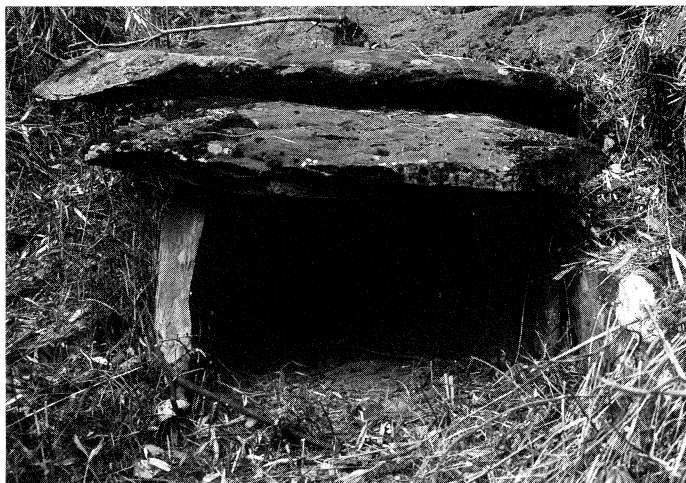
第 6 トレンチ完掘状況
(北から)



第 8 - 1 トレンチ完掘状況
(北から)



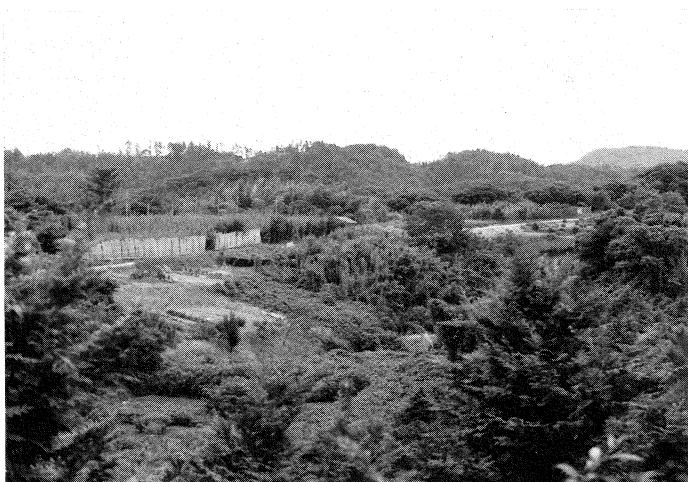
長谷 7 号墳



第9トレンチ完掘状況
(西から)



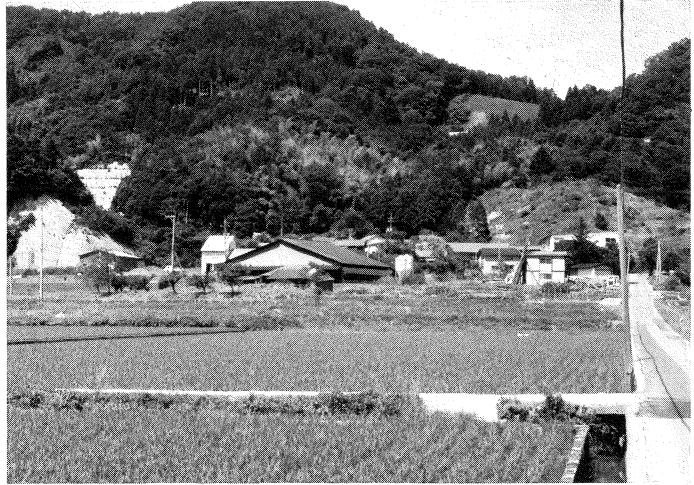
長和瀬寺田所在遺跡
周辺遠景 (北西から)



第1トレンチ完掘状況
(南から)



大口第3遺跡遠景
(東から)



第1トレンチ完掘状況
(北東から)



第2トレンチ完掘状況
(南西から)



第3トレンチ完掘状況
(南西から)



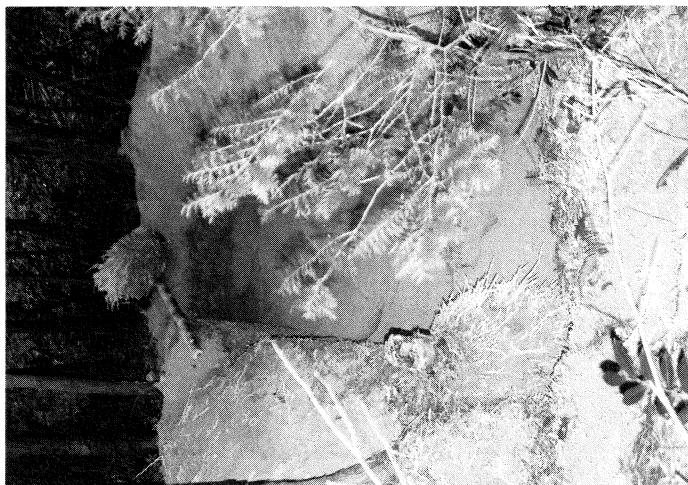
第4トレンチ完掘状況
(南西から)



第5トレンチ完掘状況
(南西から)



第6 トレンチ完掘状況
(西から)



第7 トレンチ完掘状況
(西から)



第8-1 トレンチ完掘状況
(南西から)



第8-2 トレンチ完掘状況
(南西から)



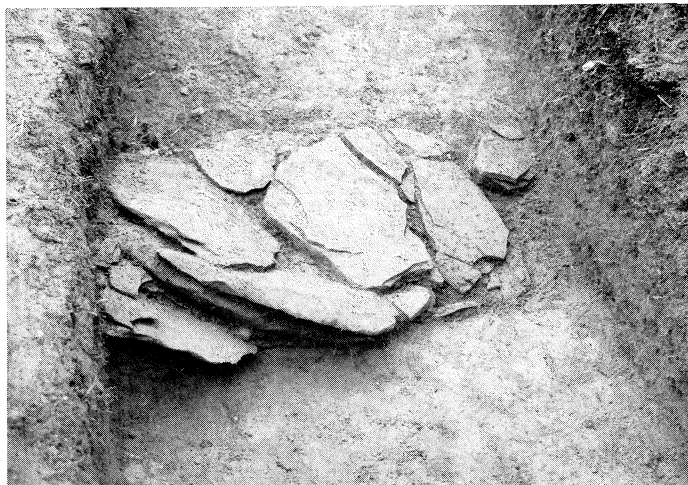
第9 トレンチ完掘状況
(南西から)



第10 トレンチ完掘状況
(北東から)



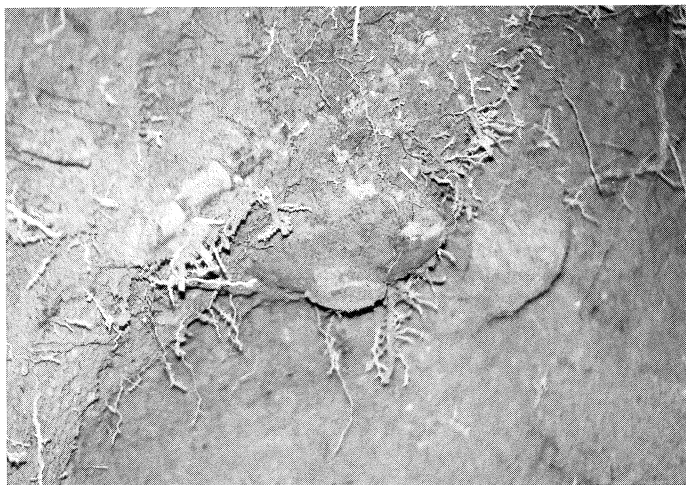
第3トレンチ
石棺出土状況

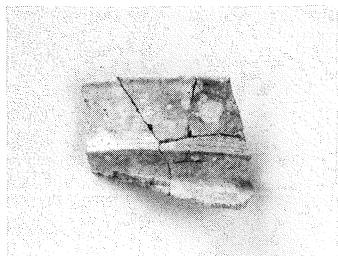


第9トレンチ
石棺出土状況

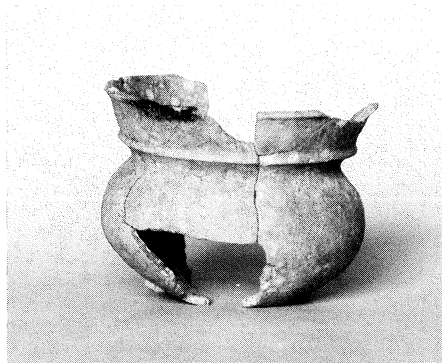


第8トレンチ
土器 (Po 11) 出土状況

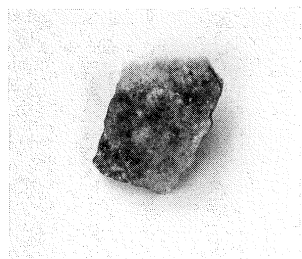




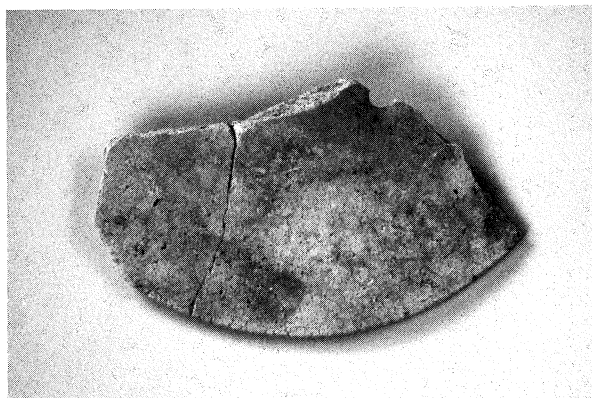
Po 01



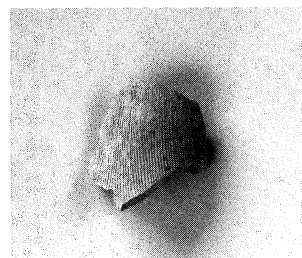
Po 02



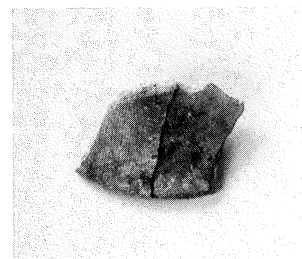
Po 03



Po 05



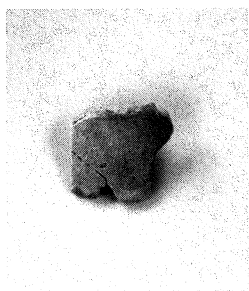
Po 04



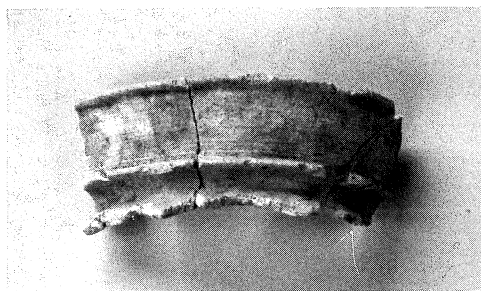
Po 06



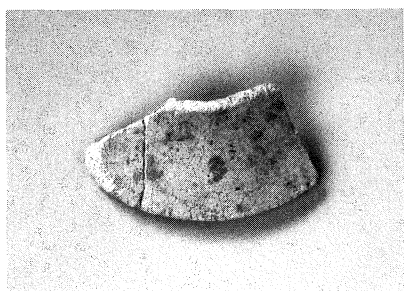
Po 08



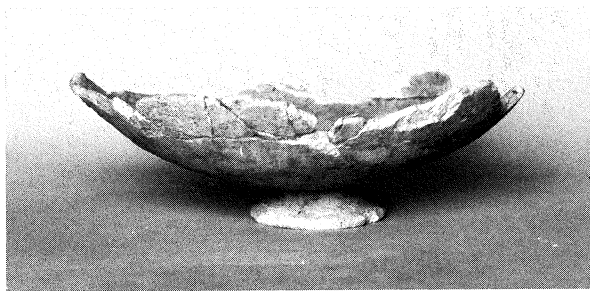
Po 07



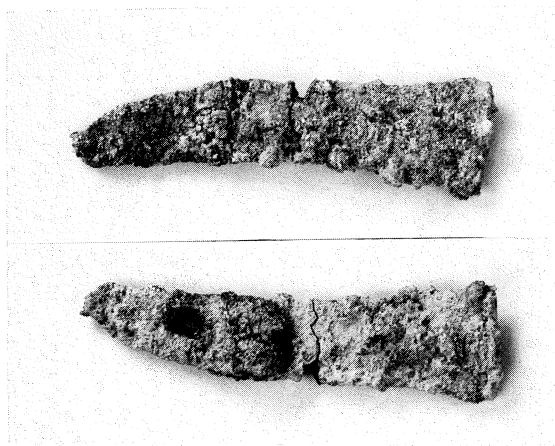
Po 09



Po 10



Po 11



F 1

青谷町埋蔵文化財調査報告書 10

青谷町内遺跡発掘調査報告書 III

(長谷古墳群、長和瀬寺田所在遺跡)
(及び大口遺跡第 3 遺跡試掘調査)

発 行 1 9 9 4 ・ 3

発行者 青谷町教育委員会

〒689-05 鳥取県気高郡青谷町大字青谷4047番地

T E L (0857)85—0011

印 刷 勝美印刷株式会社

鳥取県東伯郡羽合町長瀬

T E L (0858)35—4411

